

中長期目標 (学校ビジョン)	昨日の自分」を越えていく（出会い＋挑戦＝成長） 1 学ぶ意欲を育てる＝「主体性を育てる」「やる気を引き出す」 →授業改革 2 成長を支える＝「人と出会い、新たなことへの挑戦を促す」 →場の設定・声かけ	今年度の重点目標	1 基礎学力の向上 2 基本的生活習慣の確立 3 職業観、勤労観の醸成 4 進路目標の自己決定と達成・職業資格の取得 5 地域社会への貢献
-------------------	--	----------	---

年度当初					中間評価		
評価項目	評価の具体項目	現 状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	年度末に向けての改善策
【基礎学力の向上】	○家庭学習を充実させ、社会人として必要な基礎学力・一般教養の習得 ○「やる気を引き出す」授業の工夫・改善	○平均家庭学習時間について昨年度の調査で全生徒が1日30分以下である。 ○課題提出や小テストを繰り返し実施して、基礎学力の向上や家庭学習の定着を図り、基礎力診断テストでは1、2年生とも好結果であった。 ○成績不振者に対して、長期休業中や考查前の放課後に講習を行い、学力の底上げに取り組んだ。 ○各種検定取得には関心が高く、放課後にも意欲的に学習に取り組んでいる。 ○リーディングスキルテストを実施したが、分析・その後の対策の検討ができていない。	○生徒は進路を意識して家庭学習が定着できている。 ○全生徒の1日の平均家庭学習時間が1時間以上である。 ○教員はICTやアクティブ・ラーニングの手法を駆使し、生徒の興味・関心を育み、考える力を培う授業ができるようになる。 ○読解力が身についている。	○定期考查、資格試験、進路模試や定期的な課題提出により家庭学習の習慣化を図るとともに、確認テストや4月と11月の家庭学習時間調査を生徒にフィードバックする。 ○成績不振者に対して、放課後の学習会や長期休業中などに講習会を実施する。 ○ICTの活用やアクティブ・ラーニング、協働学習等の研修会を実施する。 ○リーディングスキルテストを分析し、読解力が伸びるような指導を実施する。	○多くの生徒が進路実現に向けて、学力や成績向上、資格取得などの目標を持って、日々の授業や朝勉強テスト、定期考查前の家庭学習に意欲的に取り組んでいる。 ○5月に実施した家庭学習時間調査では、1日あたり、1年生52分、2年生32分、3年生25分と、2、3年生は前回の調査より増加した。 ○成績不振者に対して、放課後指導や夏季休業中に講習会を実施した。 ○ICTの活用や協働学習を部分的に導入して授業に活用し、11月にアクティブ・ラーニングを用いた示範授業を予定している。 ○リーディングスキルテストを分析し、講師による教員への講習会を予定している。	C	○成績不振者や全商英検受験者に対して特別講習を行い、基礎学力の向上や資格試験合格者を増やすように授業の工夫や課題提出を実施し、また家庭学習の定着を図る。 ○11月に再度調査を計画しているので、各学年共に家庭学習時間が増えるよう、また資格取得、定期考查に向けて計画的に学習するように指導を進める。 ○ICT活用やアクティブ・ラーニングについては引き続き研究していく。 ○基礎知識・一般教養が身にくように引き続き工夫を凝らした授業を研究し実施する。
【基本的生活習慣の確立】	○知・徳・体のバランスが取れた生徒の育成 ○社会生活におけるルール・マナー・モラル等を遵守する習慣や規範意識の修得	○問題行動等は極めて少なく、日常の生活態度はおおむね良好な状況であるが、挨拶や清掃活動等では積極性があまりない。 ○交通ルールの遵守についてはさらに意識を高めるための啓発活動が必要である。 ○人間関係に悩み、解決方法が分からず不安な生徒にきめ細かく対応した。 ○人権教育講演会、それを受けた密度の濃いLHRが展開できた。	○ルール・マナー・モラル等を遵守する規範意識が高まる。 ○情報モラルの意識が高まり、SNSに関わるトラブルが起きない。 ○ハイパーQ Uを活用し、自己肯定感を高める。 ○「身近な差別」に気づき、その解消に立ち向かっていける。	○登下校時や授業、部活動等あらゆる機会を捉え、ルール・マナー・モラルを繰り返し指導する。 ○生徒指導部、進路指導部など関係各部と連携して規範意識の醸成に取り組む。 ○情報モラル講演会・非行防止教室等を実施する。 ○ハイパーQ U職員研修会を通じ、生徒について情報交換を行い、対応を共有するとともに、スクールカウンセラーや関係教職員、保護者や関係機関と連携する。 ○人権教育講演会や人権教育LHRにより、生徒の人権意識の向上を図る。	○生徒指導部、教務部、進路指導部など関係各部と連携し、学校生活のあらゆる機会 で指導ができた。 ○多くの生徒は挨拶ができているが、服装頭髪についてルールを守れない生徒が少数あった。 ○登下校時の交通マナーがよくない生徒もあった。 ○情報モラル講演会を実施した。 ○1年生はストレスマネジメントLHRを、1、2年生で第1回ハイパーQ Uを実施し職員研修会で分析・情報交換を実施した。 ○不安を抱えている生徒について迅速に対応し、担任、スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）及び関係機関と連絡・情報交換を密に行っている。 ○2学期当初に、学校全体の人権講演会を動機付けとして実施し、10月からの学年別人権教育LHRの取組を進めている。	C	○引き続き立番指導などで声かけ等行い、ルール、マナーを指導する。 ○社会人として服装や頭髪、挨拶が必要であること、普段から取り組むことの大切さを学年全体で確認する。 ○11月に第2回ハイパーQ Uを実施し、職員研修会で改善が見られるか検証する。 ○個々の生徒の様々な悩みや不安にきめ細やかに対応し、担任をはじめ必要に応じSC，SSWや関係機関との連携を図る。 ○人権講演会、公開人権教育LHRの成功に向けて学年団との連携を深める。
【職業観、勤労観の醸成】	○系統立てた指導により、適切な職業観・勤労観を持ち、意欲的に課題発見・課題解決に取り組む生徒の育成 ○インターンシップ等、体験学習の充実	○進路LHRやインターンシップ等の経験、スタディサブリや面談、学校企業見学を通じて勤労観は高まっているが、具体的な行動に移す段階には至っていない。 ○進路講演会、小論文LHR，学校企業見学等を通して職業観、勤労観の育成をはかることができた。 ○卒業後に必要であると思われることを想定した学習指導（身だしなみ講座、一人暮らし講座、租税教室など）が効果的だった。 ○衆議院選挙があったことに伴い、主権者教育の指導ができた。	○調べ学習を通じて、自ら進んで職業研究に取り組む態度が身につく。 ○様々な活動・体験を通して、適切な職業観・勤労観を主体的に描けるようになる。 ○進路実現に向け、インターンシップを行う意義を理解し、その目標を達成する。	○本人・保護者の要望を聞き、担任、進路指導部や外部関係機関とも連携をとりながら進路実現を支援する。 ○外部人財を活用し、各学年の特性に応じた講習会・講演会を実施し、早い時期から進路意識を高める指導を行う。 ○インターンシップ等の実践を受け身ではなく、自発的な姿勢で臨む事を強く意識させ、適切な職業観・勤労観を主体的に描けるように指導する。	○朝勉強テストの取り組みの一環として、進路室前掲示板に一般常識の問題を張り出し、日ごろから興味をもって問題に取り組めるように工夫した。 ○計画通りに進路講演会、職業理解ガイダンス、進路LHRを実施して、進路意識を高めることができている。 ○インターンシップを経験したことにより自身の進路をより具体的に考え行動する機会とすることができ、キャリア教育の充実につなげることができた。 ○授業などの機会を捉えて、学習に関連した職業の話をして、意識を高めている。	B	○外部講師からの講演会や学校企業見学等を通して早期の職業観、勤労観の育成を図る。 ○進路LHR、進路行事のねらいを各学年団と共有し、有益なものとなるようにする。 ○2年生はインターンシップの経験が進路実現につながるよう支援を継続する。

【進路目標の自己決定と達成・職業資格の取得】	○地元産業との連携を図り、専門性を深化させ、地域から信頼される人物の育成 ○専門人材育成重点校として、進路実現に向け、資格取得を推進し、より高度な専門資格を取得	○学年と進路指導部が連携をし、個別指導に取り組み、1月末時点で就職内定率100%を達成した。 ○標準的な資格取得については意欲・関心が強く学習にも熱心であるが、検定上位級の取得を意欲的に目指す生徒が少ない。 ○基本情報処理技術者試験（国家試験）の午前試験免除に認定され、資格取得が容易になる体制を確立できた。 ○調理師養成施設として7限授業が定着し、授業時間数の確保を行っている。 ○子どものための愛情弁当コンテストでは2年連続全国1位に輝いた。	○進路実現に向けた情報収集、資格取得、知識や技能の習得に意欲的に取り組む。 ○進路を意識して、積極的に検定上位級取得を目指す。 ○検定試験の直前に学習を始めるのではなく自身で計画を立て効率的な学習を行う。 ○各種検定の合格率が重点校制度の目標を達成している。	○進路指導部・学年団と連携して、早い段階から進路を見据えた情報を提供し、生徒個々の進路目標の自己決定を支援する。 ○進路行事・模試・資格試験などの趣旨を明確に伝え、進路意識を高める。 ○進路LHRの中で自身の適性を知り、職業調べ、学校調べ等を行う。 ○検定の上位級試験や多種目の検定試験を意欲的に受験する生徒を増やす。 ○調理師免許や技術考査への全員取得にむけた授業や課外指導を継続する。 ○各種コンクールの参加を呼びかけ、受賞や表彰される生徒を増加させる。	○就職試験が開始され、10月16現在の就職内定率（学校紹介）が90%であった。 ○計画通りに適性検査、進路LHRを実施して、進路意識を高めることができている。 ○PTA研修旅行等を実施し、進路意識の向上を目指し保護者とも連携を深めた。 ○3年生の進路実現のために資格の取得・活用を進め、生徒は講習等に積極的に参加しており取得状況も良好である。 ○各科目担当が1・2年生に積極的な資格取得への意識付けを行っている。 ○調理師免許や技術考査への全員取得にむけた授業や課外指導を予定通り継続している。 ○読書感想文コンクールには全員が参加した。 ○子どものための愛情弁当コンテストに応募し、今年度は優秀賞であった。	B	○1月末時点で就職内定率100%となるよう、粘り強く生徒を指導する。 ○後期も引き続き、検定合格を目指す。また、進学後に必要な知識も身につくよう、個々に応じた指導を行う。 ○スタディサブリの結果を活用するとともに、興味のある仕事について詳しく調べるための時間を確保し、進路関係の資料の更新・充実と情報発信をしていく。 ○各種コンクールに応募して、生徒の成功体験を増やし、積極的、主体的な学習となるように支援する。
【地域社会への貢献】	○地域を知り、ふるさとを愛し、広く地域社会の発展に寄与するリーダーの育成 ○地域活力を導入して、学校や地域で主体的に行動し、地域社会の発展に貢献する人財の育成	○北朝鮮情勢悪化のため、韓国ハンセム高校との交流ができなかった。 ○課題研究で、地域に出てイベントを行ったり、販売実習を企画した。また、地域の食材や産物の特性や魅力を知る取組をし、一部商品化も実現した。 ○家庭クラブ活動等で中海アダプトプログラムや地域イベント補助の地域活動に参加し貢献した。 ○社会人講師活用事業や保育実習、授業サポート等の交流体験学習により、コミュニケーション力等の学習成果が高まった。 ○2年生が主体となった生徒会活動、部活動も軌道に乗り、各活動での成果があらわれてきた。学校祭では、生徒会執行部、学校祭の団長・副団長が全校をまとめるリーダーとして活躍した。 ○環境リーダーや地域振興のための活動を学校活動として取り組んでいる。	○国際交流事業に参加し、体験を通して国際的視野を広げる。 ○何事にも主体的に取り組む、リーダーとして集団をまとめられる。 ○この地域の良さを再認識でき将来的に主体的に企画・実行するリーダーを目指す。 ○課題研究や各種活動を通して地域をより深く理解すると同時に、コミュニケーション力・プレゼンテーション力が向上する。	○各種国際交流事業を生徒に紹介し、意欲的に事業に参加する生徒を増やし支援する。 ○課題研究の各研究分野の相互の連携、商業学科と家庭学科との連携、進路指導部を通じた企業との連携など、本校の魅力ある取組を積極的に地域に情報発信する。 ○授業や家庭クラブの取組の中で地域や企業との関わりを大切にし、中海アダプトプログラムや地域イベントの補助等の地域活動に貢献する。 ○地域の保育園や小学校との交流授業や各種発表会に向けた指導の充実により、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を育成する。 ○生徒会活動や部活動など自分の適性、能力が発揮される場面を意識させ、より積極的な行動を促すとともにやり遂げることによって得られる充実感や責任感を実感させてリーダーを育成する。	○各種国際交流事業を生徒に紹介し、意欲的に事業に参加する生徒を増やし支援できた。 ○ハンセム高校訪問の保護者説明会を実施するなど、計画的に進めている。 ○課題研究で、地域に出てイベントを行ったり、地域の方を対象に販売実習を企画するなど、様々な取組を行っている。 ○地域振興では「七夕まつり」を実施するなど、課題研究のテーマによっては、地域への関心や理解を深め、地域・企業との交流活動ができた。 ○「大山開山1300年祭」という大きな行事があり、生徒にとっては貴重な経験の場となった。 ○前期生徒会は、生徒会執行部、学校祭リーダーの団長・副団長を中心に活動を通して大きな成長が見られ、全校をまとめるリーダーとして活躍した。 ○生徒会長選挙、生徒総会が実施され新しい後期生徒会が発足した。	B	○今後も各種国際交流事業について様々な取組を進めていく。 ○地域に出てイベントを行ったり、販売実習を企画する。また、地域の食材や産物の特性や魅力を知る取組を支援する。 ○地域との交流活動を予定通り実施し、地域の良さを生徒が理解するように取り組む。 ○後期生徒会は2年生が中心の新体制となるが、前期に引き続き、生徒が自主的に活動しやすい体制づくりを進め、各組織やリーダーの役割・責任を明確にしていく。

評価基準（5段階） A：十分に達成〔100%〕 B：概ね達成〔80%程度〕 C：変化のきざし〔60%程度〕 D：まだ不十分〔40%程度〕 E：目標・方策の見直し〔30%以下〕